

令和7年10月2日

魚沼市教育委員会  
教育長 樋口 健一様

魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会  
委員長 雲尾 周

魚沼市小中学校の教育環境の在り方について（答申）

令和6年10月29日付け魚学第545号で諮問のありました標記の件について、別紙のとおり答申します。

# 魚沼市小中学校の教育環境の在り方に関する答申書

魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会

## 1.はじめに

本答申は、魚沼市における児童生徒数の減少に対応し、子どもたちにとって望ましい教育環境を確保するため、魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会としての考えをまとめたものである。

## 2.現状と課題

- ① 児童生徒数の減少により、中学校では5校中1校が、小学校では8校中5校が1学年単学級となっており、一部で複式学級となっている学校もある。さらに、小学校では5年以内に複数の学校で複式学級となる見込みであり、中学校でも10年以内に、ほとんどの学校で単学級以下となることが予測される。
- ② 学級数の減少により、教職員、特に中学校において専門教科教員が配置されない場合がある。
- ③ 多くの学校が、建設から40年以上経過しており、施設の老朽化が進んでいる。

## 3.子どもたちにとって望ましい教育環境

少人数の利点をいかし、児童生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かな指導を行うことで、学力の定着や自己肯定感の向上が期待される。一方で、大勢で協力して取り組む活動の楽しさや達成感を味わうこと、多様な考え方や価値観に触れることで、視野を広げ、他者を尊重することを学びながら、社会性を育む環境を提供することも重要である。

また、中学校においては、専門教科教員の配置による教育の質の確保が重要である。以上のことから、魚沼市の小中学校の教育環境の在り方として、次のように提案する。

- ・小学校 1学年2学級以上 市内で4校程度
- ・中学校 1学年3学級以上 市内で1校

具体的な理由として、次の点があげられる。

- ・全学年においてクラス替え可能となり、人間関係の固定化を防ぐことができる。
- ・集団での教育活動の充実ができる。
- ・新たな出会いの中で多様な考え方に触れることができる。
- ・同学年に複数の教員を配置することができる。
- ・中学校では、すべての教科で専門教科教員を配置することができる。

#### 4.実現に向けた具体的な方策

- ① 小学校では令和 17 (2035) 年度を目途に統合する。ただし、複式学級となることが見込まれる学校では、統合の早期実現を検討すること。  
なお、中学校では令和 22 (2040) 年度を目途に統合する。ただし、生徒数の減少が著しい学校から、段階的な統合を検討すること。
- ② 旧町村の枠組みを超えた柔軟な学区の見直しによる学校の適正配置を進めること。
- ③ 学区の見直しにおいては、保護者及び地域住民との対話を重視し、丁寧な説明を行うこと。
- ④ 望ましい教育環境の実現のため、令和 22 (2040) 年度以降を見据えた市立学校の再編方針を示すこと。

#### 5.付帯意見

- ① 旧町村の境界による現行の通学区域について、距離等が大きく偏っている場合の見直しと適正な配置について検討すること。
- ② 通学距離の変更への対策として、スクールバスの運行やその他の通学支援策を検討すること。
- ③ 統合後の学校名称については、地域住民が親しみやすく、長期的に使用できる名称となるよう配慮すること。